

世界各地のクマの種類と 凄惨な人身事故例

クマをはじめ、恒温動物は体重が重く体表面が大きいほど体内の熱生産性が高くなる。そのため、寒冷な地域に生息する種ほど体が大きい。ベルクマンの法則だ。

現在、世界のクマ類は8種^(※1)。法則どおり世界最大はホッキョクグマだ。オス成獣200~250cm、400~600kg。メス成獣180~200cm、200~350kg。19世紀のアラスカでは体重約1tという個体も記録されている。クマ類はみな雑食性だが、生息域が北極圏沿岸域ということもあり、最も肉食性が高い。

次いで大きいのは、ヒグマ。アジアクロクマやナマケグマなどの4種は中型。パンダはさらに小ぶり。世界最小は主に東南アジアの熱帯雨林に生息するマレーグマである。

人身事故件数の少ない種は、中国四川省などに分布するパ

ンダ。次いで前述のマレーグマやインド北~南部の広範囲とスリランカに分布するナマケグマだ。だが、世界最多の犠牲者を出した人身事故は、ナマケグマによるものだった。1957年にインド南部で発生した「マイソール事件」である。

人間の生活圏に巣を作り、農作物に被害が出る。住民が撃退策を講じると、普段温厚なナマケグマが豹変し人々を襲った。少なくとも12人以上が落命したという。

また、パンダによる事故も中国の動物園で発生している。酔った男が檻内に侵入し、パンダにハグし腹を咬まれた。柵を乗り越えた15歳の少年は足を裂かれた。いずれも不意をつかれたパンダの防衛行動による負傷だ。

犬や猫も敵とみなせば人を噛む。可愛いぬいぐるみではなく、野生動物なのだ。

温厚な種が12人を殺害する事件も